



## そろばんを通じて学んだこと

愛知県 北村 剛志

皆さん、こんにちは。私は兵庫県で生まれ育ち、現在は製造業の会社に勤めています。今回このような機会をいただき、甚だ僭越ではございますが、珠算を通じて得た経験が今の私の会社生活にどのように生きているか、少し振り返ってみたいと思います。

近所の同級生の影響で、小1の3月に珠算を始めた私は、上達していくことが嬉しく、楽しく通塾していました。見取暗算を習い始めた頃、間違えることが嫌で、盤面を思い浮かべずに1口ずつ足していた時期があったことを覚えています。当然速度も出ません。技術的な進歩が期待できないことに気付いたあるとき、「間違えてもいいから、いま一度珠算式暗算でチャレンジしてみよう」と思い、やってみると思いのほか多く正解することができました。これを機に珠算式暗算できちんと練習するようになり、暗算種目が好きになっていったと思います。仕事では、物品購入の予算などお金の計算、機械設備など工学的な計算、業務データの統計処理など、暗算力や数的感覚が生きる場面は多々あり、本当に役立っています。

中学生の時、初めて全大阪オープンに参加させていただくなど、全国のトッププレイヤーの技術を目の当たりにし、大きな刺激を受けました。問題も難しく、小さい頃は一生懸命に練習するだけでしたが、自分の計算プロセスのどこに課題があるかを知り、競技会までの残りの期間でどうやれば目標点に届くのか、技術を磨けるのかを考え、取り組むようになりました。仕事では、締切や目標値を基に逆算して業務計画を立てることが求められ、重なる点が大きいと感じます。

大学生の頃になると、地元の大会では同点決勝に臨むことも増えてきましたが、うまくいかないこと

も多々ありました。地方大会の同点決勝問題などは市販されておらず、なかなかしっかりと準備ができていないな、と感じていました。そこで、無いなら自分で作ってみよう、と思い立ち、「表計算ソフトで作れないか」「乱数を使い、問題が自動作成できるようにしたい」と考え、取り組んでみました。関数を学び、作問規定の壁にぶつかりながらも、数日考えて浮かんだアイデアで乗り越えられたことは嬉しい経験でした。仕事でも表計算ソフトはよく使うため、関数に強くなったことは業務データの処理にとっても生きています。

このように、珠算が持つ効用に加え、珠算学習を通じて得た問題解決力や実務スキルが生きていると思います。いずれにおいても「やってみよう」「できた」「苦労したけど楽しい」「次はどうしようか」の好循環が成長につながったと思います。失敗や悔しさを乗り越える。それが結実したときにうれしく、楽しい経験として残り、次への原動力となるのだと思います。このような数多くの“楽しい”経験に導いてくださった故松本四郎先生を始めとする先生方、共に切磋琢磨してくださった全国の選手の皆さまに深く感謝申し上げます。

年齢を重ね、家族も増え、日々の生活の中で優先順位は変わりました。しかし、目標を立てて取り組み、次に向かっていく。そのような、楽しめて自分を磨ける「珠算」という居場所が家庭や仕事の他にあることは、人生を豊かにする大きな財産です。珠算を続けられることに感謝し、家庭や職場で役割を果たし、「そろばん“も”できる人」となれるよう、珠算十段の取得と、我が子と一緒に競技会に参加することを楽しみに、日々成長していきたいと思っています。